

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 13 日現在

機関番号：12701

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23500686

研究課題名(和文)男女必修ダンスのモデル教授法開発 - 初心指導者に焦点化して -

研究課題名(英文)Development of Dance model teaching method on man and woman compulsory subject-Focusing on beginner teachers

研究代表者

高橋 和子 (Takahashi, Kazuko)

横浜国立大学・教育人間科学部・教授

研究者番号：10114000

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円、(間接経費) 1,230,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、中学校の男女必修化されたダンスにおいて、初心指導者のつまづきをなくし、誰もが授業実践できる教材と指導方法を提供することであった。特に男性教員のダンス指導実践の問題点を洗い出した上で、典型教材を選定すると共に、3つの指導スタイル(師範型・言葉での誘導型・課題提示型)を関連付けてパッケージ化した映像を作成し、web発信した(<http://kazuko-ynu.jp>)。映像はダンス技能や指導の留意点が指導のポイントとして視覚化されている。その結果、モデルパッケージを活用する方法は、初心指導者においても、授業実践がある程度、有効にできることが分かった。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to provide the teaching materials and the instruction method that an beginner teachers teach it and can practice in a dance made the man and woman compulsory subject of the junior high school.I chose the model teaching materials after having investigated problems of the dance instruction practice of the male teacher and made the picture which I connected three instruction-style (instruction type by an instructor type, words, problem presentation type) and made a package, and web sent in particular it. As a result, as for the method to utilize a model package, class practice understood that I should remain in effect in the beginner to some extent.

研究分野：複合領域

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学・身体教育学

キーワード：男女必修ダンス 初心指導者 大野一雄 モデル教授法開発 パッケージ化した映像 示範型 言葉での誘導型 課題提示型

1. 研究開始当初の背景

【2012年中学1・2年男女がダンス必修へ】

2012年から中学校保健体育1,2年男女のダンス必修化が完全実施される。中学校男女への必修は明治以来、初めてである。本研究者は新学習指導要領作成協力者として関わったが、全国での講演・講習受講者、並びに先行研究での意識調査からは、実施への不安が推察される。これまでも男女共習ダンス教材開発については、本研究者をはじめ(「中1ギャップの克服をめざして:男女必修ダンスの指導法開発を促進する小中連携」科研費2008~2010)、数件ある(日本体育学会研究発表2009,2010)。しかし、ダンス指導教員不足、男子生徒の戸惑い、指導内容と方法への無理解、体育祭のダンス発表でよしとする風潮等により、ダンス授業実施率の低さが予想される。そのような背景を踏まえ、「初心ダンス指導者向け(特に男性指導者)」「男女必修ダンス」を意図した効果的な指導法研究が、重要な課題である。本研究では指導が難しいとされる創作ダンスを主な対象とする。

【3つの指導スタイルを抽出】

先行研究において、初心指導者でも教材の意図と指導方法を押さえれば、ある程度ダンス指導ができることが検証された(日本女子体育連盟全国女子体育研究大会紀要,2007~2010)。成功の秘訣は、初心の指導場を熟練者が観察助言(特に技能ポイントや即興表現の方法等)することであった。また教員の指導スタイルは大きく分けて、示範型、言葉での誘導型、課題提示型があり、このスタイルがその教師固有のものか、種目や単元に規定されているのかは不明であった。そこで、中学校のダンス初心指導者にとって、有効な指導スタイルを明確にすることも必要であるが、そのことを検証した研究は余りみられない。

2. 研究の目的

そこで、研究の背景に掲げた課題を解決するために、次を研究目的に据えた。

- (1) 男性教員として戦前からダンス指導を行った大野一雄氏(1906-2010)に着目し、彼の即興表現の指導法の特徴を明らかにする。
- (2) 初心指導者が選択する教材の特徴と指導の共通点、並びに課題を探り、「男女必修ダンス授業」に効果的な典型教材と方法を選定する。その際、大野一雄の即興表現の特徴も参考にする。
- (3) 選定された典型教材を、数校の中学生に初心指導者が指導し、指導の留意点や、ダンス技能や知識を明確化する。
- (4) 以上を踏まえ各教材と指導スタイルを関連付けてパッケージ化し、初心指導者に有効なダンス指導モデルを開発する。

3. 研究の方法

研究方法の概要と詳細を記述する。

【概要】

本研究の前段階として、気軽に踊れる「ダンス」教材に関する知見と諸外国の研究成果に基づいて、「男女必修ダンス授業」に効果的な典型教材を特定した。選定された典型教材を、数校の小学校、中学校1年、2年の男女に初心指導者が、指導の留意点や、ダンス技能や知識を、各教材ごとに明確化した。以上を踏まえ、各教材と指導スタイルを関連付けてパッケージ化し、初心指導者に有効なダンス指導モデルを開発した。それを、3つの指導スタイルでパッケージ化し、その有効性を検証する方法をとった。

【研究方法の詳細】

- (1) 本研究を深める為に、明治生まれで戦前戦後を通して、即興表現を重視した大野一雄氏(1906-2010)の指導法(内容・方法)に着目し、文献研究と捜真女学校関係者への半構造化面接法を行った。
- (2) ダンス初心の中教員(女性3名,男性16名)が行った全国大会や県指定での創作ダンス授業(北九州市,新潟市,花巻市,盛岡市,宮古市,一関市,山形,東京,神奈川)並びに表現運動実践4年目の男性小学校教員を対象に、初心指導者が選択する教材の特徴、指導の共通点と課題、ダンスの魅力や単元計画・指導案・授業者や指導主事等への聞き取り、授業参観者へのダンス用語の理解度調査、ダンス指導状況を調査した。
- (3) 先行研究の知見から明確になった課題を3つの指導スタイル(後掲:ダンスDVDの分析により共通点と差異を明確化)と組み合わせ、妥当なモデル教授法をパッケージ化した。ダンス指導初心者(教員養成系学生4名)がモデルパッケージを視聴後、創作ダンス初心学生20名に模擬授業を実践した。その様子を撮影すると共に、授業後、授業者への質問(難しさ,やりやすさ,改善点)と受講者への質問紙調査「高橋健夫らによる授業評価31項目」を実施した。
- (4) 3つの指導スタイル
示範型の村田芳子筑波大学教授は、学習指導要領作成協力者であり、創作ダンスやリズム系ダンスの即興表現指導に定評がある。動きを得意とする指導者の場合、自らが師範してダンスの世界に誘導することができる。
言葉での誘導型の高橋和子(本研究)は、学習指導要領中学校の作成協力者であり、ダンスが得意でない指導者でも、教材の意図をつかんでいけば、言葉かけによって、ダンス創作に簡単に導くことができる。
課題提示型の近藤良平氏は、テレビサラーマン体操・朝のNHKテレビ小説てっぱん、

第 68 回国民体育大会（東京 2013）開会式の振付を行っており、身近に知っている動きや 2 人組で展開する動きの工夫によって、誰でもすぐに踊れる動きの提示に定評がある。

4. 研究成果

1. 大野一雄氏の指導法の特徴

大野は半世紀以上にわたり捜真女学校に関わり、ダンスや聖劇を通して「形を教え込む」のではなく、「真剣な言葉かけ」によって自己の内面に対峙させ、「自由な表現を引き出した」ことが明らかになった。教育者であり舞踏家であった大野は、謙虚さと奉仕と愛情に満ち溢れた信仰心で生徒に接し、一連の教育法は世界的に活躍しだしても変わらず、人間の可能性を引き出し生と死の問題も照射し表現してきたと言える。この大野の姿勢は、創作ダンスや教育の原点ともいえ、ダンス指導法のヒントになると考えられる。

2. 初心指導者の教材と典型教材の選定

初心指導者の教材入手は文科省発刊の学習指導要領解説や参考図書、国立政策教育研究所の資料や日本学校体育連合会や日本女子体育連盟などの講習会や市販のDVDをヒントにしていることが分かった。そこで誰でもが入手可能な教材として、本研究者も作成協力者として関わった学習指導要領解説や、それを具現化した『中学校保健体育科における「ダンス」リーフレット』や『学校体育実技指導資料第9集 表現運動系及びダンス指導の手引』に掲載されている教材を主とした。

3. 初心指導者の指導法の共通点

初心指導者の授業スタイルは既習のリズム系ダンスで心身をほぐし、習得すべき技能が明確な教材を選択し、子ども主体のグループ学習をしていること。授業規律やマネージメントをしっかり押さえ、児童・生徒が何を学び、どんな技能を身に付ければ良いかの指針が提示されていること。ダンス用語への理解がなされていること。ダンス指導の現状は男性教員が女性教員に比べ、ダンス指導経験が少なく、指導を難しいと感じていること。ダンスの魅力としては、「心身の解放・人間関係が円滑・競争がなく自由に表現できる世界」を挙げていることなどが分かった。

また、初心指導者の課題としては、表現したいテーマやイメージよりも、運動の技能を優先した指導がなされていること。ダンス技能を明確に押さえる必要があること。男女共習の授業スタイルに慣れること。適切なアドバイスができること。実践時にはスーパーバイザーが必要であること。そして、指導法のパラダイムシフト（一斉指導での知識技能注入型から問題解決学習へ）等があげられた。

4. 3人の熟練指導者の指導方法

3人(村田芳子,高橋和子,近藤良平)の熟練指導者は、指導方法は異なるものの、即興表現を重視し動きやイメージを引き出す指導をしていることが、本人へのインタビューや文献研究で明らかになった。具体的な特徴と差異は次の通りである。

村田芳子

中等教育学校の教員養成をメインに、体ほぐしからリズム活動や表現へ向かう全身運動を2人組で音楽を多用しながら、連続的な動きで他者との関わりを自由即興で「やってみる - 広げる」やり方をしている。また「多様な動きの体験と共有」を主眼に、「体ほぐしからリズムへ」「動きを提示して自由に再構成する即興表現」の授業の流れであり、「授業の起伏と気分の流れや、誇張・動きのメリハリ・連続性」を重視し、内容に合った音楽を使用し1曲踊りきる方法を多用している。

高橋和子（本研究者）

小学校教員養成をメインに、からだ気づきを重視し、遊びを通していつの間にか表現へ向かう方法で、他者と関わりながら即興表現を楽しむ中で、コミュニケーションや自己を肯定する場を創出している。また、「言葉やイメージで動きを誘発」する方法を援用し、「からだほぐし」「素材提示・即興表現・発表」の授業の流れであり、「声かけで技能やイメージを高めたり、歌を歌ったり、雰囲気のある音楽をかけて、表現世界へ誘うと共に、主体性を重視する」指導方法を行っている。

近藤良平

振付家として、即興的にリアルタイムに、衝動的に生まれる動きを楽しみ、支援に満ちた学習の機会を提供しようとしている。「パターン化した動きの提示」をメインに、「からだ遊び」「何気ない動き&即興」の授業の流れであり、「自由な雰囲気の中、オノマトペで流れを創ったり、生伴奏（ハーモニカやピアノ）」を多用する特徴がある。

3人の熟練指導者の共通点

3人の共通点は、課題（手がかり）は明確であり、2人組を多用し、即興的に表現しながら、どんな動きでもよく“何でもあり”という自由な雰囲気の中で、カウントで縛らず、動きや個性を褒めて引き出すやり方が共通している。この方法がダンスのモデルパッケージ作成のコンセプトになる。

5. モデルパッケージ作成

(1) モデル映像の作成

指導場面は、ほぐしから典型教材まで、必要に応じて振り返りの様子も収録した。

(2)テロップの内容

「教材のねらい・指導方法」「受講者とかわる際の注意点」「受講者への声かけ」を中心にテロップを作成した。

6. モデルパッケージによる模擬授業

モデルパッケージによる模擬授業の成果や課題は次のとおりである。

(1)指導のやりやすさ

ダンス技能の示範：動きが明確であるので対極の運動の示範や段階を踏んだ指導が分かりやすく、自身で好きなようにアレンジできる点も、自由性がよりよかった。

指導：モデル映像視聴後の模擬授業の為、授業の流れは頭に入っており、各班の創作時や発表時への声かけもでき、受講者が自然に楽しく動いてくれたので楽であった。説明：テロップのおかげで大切なポイントも伝えられると共に、教材の意図やテーマを自由に設定もできた。

(2) 指導の難かしさ

技術示範：動きの提示がワンパターンでメリハリのある動きの指導も難しかった。

指導：導入から教材の繋がりが希薄だったり、発想やイメージや動きを引き出したり盛り上げる声かけや大事なポイントを言うのを失念したり、見せ合う場面や全員への配慮が不足していた。これは、指導経験不足が起因していると考えられる。

(3)改善点

導入：展開につながるほぐしと引き出しが多く必要である。

技術示範：示範と声かけの明確化と共に、意識させたいポイントを十分に伝える工夫が必要であり、声かけに集中すると動きを引き出すことが疎かになるので、そのバランスも大事である。

場の使い方や受講者の位置関係：指導者がどこに位置して指導したらよいのか、ウォームアップ時、課題提示時、グループ学習時など、場面や単元や受講者数に応じた立ち位置の工夫が必要である。

指導：イメージを膨らませたり動きのギリギリ感を促す声かけ、動きが小さい班への対応や2人組の体格差への考慮等、いくつかの配慮が必要である。

(4)ダンス指導のモデルパッケージ活用

モデルパッケージ：教材提示はわかりやすいが、教材の意図や指導方法の留意点や声かけ等のテロップは修正が必要である。

モデルパッケージ活用の有効性：初心指導者であっても授業実践がやりやすく、受講者の授業評価も高いことから、有効性はある程度認められた。しかし、教材解釈や指導のポイントをおえた言葉かけが難しいことも分かった。

指導スタイル：「師範型/言葉での誘導型/課題提示型」の3つのモデルを用意し、どれもが有効性のある指導であった。その一方で、自身が好きな指導スタイルもあることが見えてきた。この方法は、指導者によって固定しがちな指導スタイルの変容を促すと共に、問題解決学習を援用したダンス指導の様々なパターンを提供できるものとも言える。

パッケージのDVD化やWEB配信

本研究者（高橋和子：公式WEBサイト）にモデルパッケージをアップしており、誰でもが視聴できる。ただ、個人情報や著作権の問題も含め、映像配信には検討が必要な部分もある。

7. 研究のまとめ（独自性と普遍化）

平成23-25年度に計画していた研究計画は、ほぼ達成した。本研究の大きな目的は、男女必修ダンスにおいて、初心指導者のつまづきをなくし、誰もが授業実践できる教材の選択と指導方法を提供することであった。ダンス指導のモデルパッケージを活用する方法は、初心指導者においても、授業実践がある程度有効にできることが分かった。

(1)本研究の独自性

「教材の映像化」はダンス技能や知識や指導の留意点が「指導のポイント」として視覚化されるような映像になっている点であり、下記の公式WEBサイトで視聴可能である。

- ・高橋和子 (<http://kazuko-ynu.jp>)
- ・URL:<http://kyoushi-odoriba.seesaa.net/>
このサイトは、映像共有が可能な双方向の教師の新しい支援ツールとして、今後のダンス授業の有効な支援策になる点で意義がある。

(2)本研究の普遍化

3年継続で行った本研究の成果は、文部科学省が発刊した『中学校保健体育科におけるダンスリーフレット』（本研究者は主査：2011年）や『学校体育実技指導資料第9集・表現運動系及びダンス指導の手引』（2013年）、『新ダンス授業講座』（DVD付き）、『女子体育：ダンスハンドブック』（日本女子体育連盟2009～2013）等のアイディアとして生かされている。また、日本体育学会（2011～2013）、日本教育大学協会舞踊発表会（2011-2013）、舞踊学会（2011,2013）、国際女子体育連盟キューバ大会（2013）、ポロニャ大会議（2013）で発表され、国内外の多くの研究者に情報提供できた。

(3)今後の展望

今後は映像教材を増やし、WEB発信すると共に、双方向のやり取りを通して、実践の工夫や新教材の提案などが、初心指導者同士で交流できることを願っている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 21 件)

<2013 年>

高橋和子.ユニバーサルデザインワークへの志向.査読無.財団法人日本教育連合会.第2集.177-184

高橋和子.赤ちゃんが笑うとき.査読無.女子体育.第55巻1号.4-5

高橋和子.系統性のあるダンス指導.査読無.女子体育.第55巻8号.4-5

高橋和子.人と人を繋げるダンスの力.査読無.女子体育.第55巻10号.4-5

高橋和子.男女必修ダンスの授業実践についての一考察:男性教員に焦点化して.査読無.舞踊教育学研究.第15号

伊藤史織,高橋和子.日常空間を利用した表現実践について.査読無.舞踊教育学研究.15号

高橋和子.ゴールフリーな身体表現の可能性.査読無.神奈川県教育文化研究所.14-17

<2012 年>

高橋和子.創作ダンスの指導は難しくないのだが.査読無.体育科教育.第60巻第2号.22

高橋和子.創作ダンスで身に付ける技能とその評価.査読無.体育科教育.第60巻第2号.28-31

高橋和子.ダンスウォームアップの目的と方法.査読無.女子体育.第54巻8号.8-11

高橋和子.身体を意識するウォーミングアップ.査読無.女子体育.第54巻8号.62-67

<2011 年>

高橋和子.大野一雄のダンス教育に関する一考察-捜真女学校時代の指導経緯を中心として.査読有.(社)日本女子体育連盟学術研究.第27号pp1-16

高橋和子.教育者としての大野一雄.査読無.舞踊学.第34号.83-86

高橋和子.大野一雄・慶人の舞踏人生.査読無.女子体育.第53巻4号.6-11

中尾和子,高橋和子.身体は使ったように変化する.査読無.女子体育.第53巻1号.6-9

高橋和子.わかりあうべき存在としての他者.査読無.女子体育.第53巻2号.4-5

高橋和子.自己を肯定して生きる.査読無.神奈川県教育文化センター教文研.145号.1-4

高橋和子.体づくり運動の生活習慣化問題をたず.査読無.体育科教育.第59巻第1号.9

高橋和子.基盤研究C,平成20-22年度、「中1ギャップの克服をめざして 男女必修ダンスの指導法開発を促進する小中連携」.査読無.報告書

20. 寺山由美・高橋和子.元気な子供と女性のライフステージを補償する運動プログラムの開発.査読無.ミズノスポーツ振興財

団スポーツ学等研究助成報告書.1-8

21. 高橋和子.子どもの学びを創り出す.査読無.教育実践臨床研究.藤沢市教育文化センター.12-14.21

[学会発表](計 17 件)

(学会発表等)

高橋和子.男女必修ダンスのモデル教授法開発:初心指導者用モデルパッケージ.第33回日本教育大学協会舞踊研究発表会.鳥取大学.2013

高橋和子.中学校男女必修化対応のダンス指導.日本体育学会.立命大学.2013

高橋和子.“A study on the Co-Education of Dance of Physical Education as the compulsory subject” 17th Quadrennial World Congress of IAPESGW (国際女子体育連盟キューバ大会) 2013

高橋和子.男女必修ダンスのモデル教授法開発:初心指導者の創作ダンス指導に注目して.日本体育学会.東海大学.2012

高橋和子.これからのダンス指導の在り方:初心指導者のダンス指導に注目して.H24 岩手県中学校ダンス指導者研修会.2012

高橋和子.男女必修ダンスの授業実践についての一考察:男性教員に焦点化して.第32回日本教育大学協会舞踊研究発表会.群馬大学.2012

(招待講演)

高橋和子.ダンスの力:人をつなぐ.日本女子体育連盟.静岡県立静岡城北高等学校体育館.2014

高橋和子.A symposium to celebrate the 10th anniversary of "Kazuo Ohno Archive",

The Bologna Conference of November 2013
高橋和子.学校教育におけるダンスの歴史の変遷と教育的価値.第60回舞踊学会.愛知芸術文化センター.2013

高橋和子.ダンスの力.日本女子体育連盟.高松市総合体育館.2013

高橋和子.からだの気づきからリーダーの資質を育てる.高知県看護協会会館.2012

高橋和子.Why Do Dance?,Dance Triennale Tokyo 2012 Symposium.国連大学

高橋和子.教育者としての大野一雄.舞踊学会.早稲田大学小野記念講堂.2011

高橋和子.子どもの学びを創り出す.藤沢市教育文化センター.2011

高橋和子.からだ気づきの有効性.神奈川県立学校保健会.厚木パートナーセンター.2011

高橋和子.活力ある児童生徒を育む 体育学習のあり方:からだへの気づきを通して.平成23年度千葉県学校体育研究大会.習志野市立第1中学校.2011

高橋和子.新学習指導要領実施の現状と課題.神奈川県教育文化研究所.小田原市市民会館.2011

<映像資料>

・文部科学省.高橋和子(作成協力).リズム系ダンス指導のための映像参考資料.2014

[図書](計 4件)

村田芳子.高橋和子他.学校体育実技指導資料第9集.表現運動系及びダンス指導の手引.文部科学省.㈱東洋館出版社.2013

高橋和子.中学校保健体育ダンスDVD:全3巻監修.日本コロムビア株式会社,2012

高橋和子.表現運動・創作ダンス「いきいき動けるテーマ集」CD監修.日本コロムビア株式会社,2012

高橋和子.新学習指導要領に基づくリーフレット作成委員会.中学校保健体育科における「ダンス」中学校保健体育【ダンス指導のためのリーフレット】文部科学省.2011

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]

ホームページ等

・高橋和子公式サイト <http://kazuko-ynu.jp>

・「教師のODORIBA」

URL:<http://kyoushi-odoriba.seesaa.net>

6.研究組織

(1)研究代表者

高橋 和子 (Takahashi Kazuko)

横浜国立大学・教育人間科学部・教授

研究者番号: 10114000

(2)研究分担者 無()研究者番号:

(3)連携研究者 無()研究者番号: